

主 題：新しくされた者の責任と希望 2

聖書箇所：コロサイ人への手紙 3章5-11節

テーマ：新しくされた者として、どうすれば罪に勝利し、忠実に歩めるのでしょうか？

今朝もパウロが記した「コロサイ人への手紙」から、皆さんとともに神の真理を学べることを心から感謝しています。今日は3：5から見ていきますが、前回の流れを確認するためにももう一度1節から読みましょう。

3:1 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。

3:2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

3:3 あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。

3:4 私たちのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現れます。

3:5 ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。

3:6 このようなことのために、神の怒りが下るのです。

3:7 あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。

3:8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。

3:9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、

3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。

3:11 そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。

前回から私たちは「新しくされた者の責任と希望」について学び始めました。その内容を思い出してください。ローマの獄中にいたパウロの許にエパfrasから届いた知らせは、忠実に歩んでいるコロサイのクリスチャンたちが偽教師たちによって惑わされているというものでした。いろいろな間違った教えが教会の中に入り込んで来たのですが、最も根底にあったのは、救いにおいて、また、信仰者の歩みにおいて、キリストだけでは十分ではないという考えでした。そして、そのような誤った教えが人々を正しい福音、真理から引き離そうとしていたのです。イエス・キリストの十分性が脅かされていました。そこでパウロは同じ主を愛する兄弟姉妹たちにもう一度、キリストがいったいだれなのか、そして、キリストによって救われた者はどのような者なのか、そのことを思い起こさせようとしたのです。

「兄弟たち、確かに、あなたがたはかつては霊的に死んでいたし、キリストの敵として歩んでいた。でも、今は何よりもあなたがたに必要なキリストが与えられた。キリストとともに十字架につけられ、古い自分はもう完全に終わった。新しいいのちが与えられてあなたがたは全く新しい者に造り変えられたのだ。だからこそ、キリストを知る以前のような価値のない生き方をするのではなく、キリストとひとつにされた者にふさわしい生き方をしていきなさい。」と命じたのです。あなたがたにとってキリストだけで十分なのだと言ったパウロは教えました。コロサイ教会の人たちがキリストにあってどのような希望とどのような責任をもっているのかということパウロは明白に記したのです。

そして、もちろん、この真理は今の私たちにも当てはまることです。キリストによって救われた者の生き方は変わると言います。ローマ書6：6-7にパウロはこのように記しています。「6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。」、罪の支配、罪の奴隷から解放され、新しくされた私たちはそれにふさわしい歩みを、この世に置かれている間、聖さを求めて生きる者へと変わったのです。地上のものではなく天にあるものに心を留めて、必ず、帰って来られる主に期待しながら今日を忠実に歩いていく、その責任が私たちにはあるということ前回学んだのです。

さて、前回のメッセージの後、ある人がこのように尋ねて来ました。自分はクリスチャンとしてこの世のものではなく天のものに目を向け、キリストに似た者になり変わっていきたくて、でも、悲しい

ことに、地上のものを思わないようにとしても自分は弱く罪との葛藤や同じ失敗を日々経験します。どうすれば、日常生活の中で罪に勝利し聖く変わり続けて行くことができるのでしょうか？と。皆さん、このことを聞かれてどう思われますか？また、もし、皆さんの許にこのような人が来てあなたからのアドバイスを求められたとしたら、皆さんならどう答えるでしょう？

恐らく、ここにおられる多くの方々はこの人の気持ちがよく分かると思います。なぜなら、私たちひとり一人も神に喜ばれる者になりたいという願いを持ちながら、日々罪との戦いを経験し、そして、ときに敗北を味わうからです。皆さん、先週の自分の歩みを振り返ってみてください。先週私たちは、キリストにあって新しくされたのであれば、私たちは地上のものではなく天にあるものに心を留めて歩んでいく、その責任があると学びました。先週のあなたの歩みはキリストによって新しくされた者にふさわしい歩みだったのでしょうか？それともそうではなかったのでしょうか？私たちは日々キリストに似た者になり変わり続けて行くことを学びました。では、この一週間であなたはどの点でキリストに似た者になったと言えるのでしょうか？私たちは聞いたみことばを実践することを繰り返して教えられて来ました。

そのようなチャレンジが与えられている私たちは、ときに「難しい！」と覚えることがあるでしょう。また、私たちが聖くなりたい、聖くなろうと歩む中において、罪に対して繰り返して敗北を喫するとき、このような考えを持ったことはないのでしょうか？「聖書はかつての自分はキリストとともに死に、罪の支配に勝利したと明確に教えている。では、なぜ私は今もなおこのように罪との戦いに苦しんでいるのだろう？どうして、こんなにも罪との戦いは難しく何度も何度も自分は罪の誘惑に負けるのだろう？罪は本当に自分を苦しめる。だから、早くこのからだから解放されて天に行きたい。これほどまでに罪に敗北し続けているのは、もしかすると、私は本当には救われていないのかもしれない…。私は罪との戦いにおいて今勝利することが可能なのだろうか？」と。

私たちは自分の内側を見るほどに神の基準に達していないことに気づき、その罪との戦いにおいて敗北を喫したり、罪悪感で心がいっぱいになっていくときに、徐々に喜びや平安を失っていくことがあります。私たちが覚えておかなければいけないことは、確かに、救われた後も例外なく私たちはみことばに従おうとするときに、そうはさせまいとする罪との戦いを経験します。しかし、キリストとひとつにされた者はこの罪との戦いにおいて必ず勝利できるということです。そして、私たちがみことばに忠実に歩んでいくときにこそ、私たちはキリストに似た者へと変わり続けていくことができるのです。これこそがキリストによって召された者、新しくされた者の生き方だったのです。罪との戦いを経験する私たちだからこそ、どうすれば罪に勝利し続けることができるのか？その答えを知っていることはとても大切なことです。いったい、その答え、その秘訣は何だったのでしょうか？

今日、皆さんと考えたいことはこのことです。どうすれば罪に勝利し聖く変わり続けていくことができるのか？ということです。どうすれば私たちは新しくされた者の責任に忠実に、地上のものではなく天のものにいつも心を留めて歩んでいくことができるのでしょうか？感謝なことに、パウロも自分自身が私たちと同じように罪との葛藤を経験していたゆえに、その答えを明白に今日のテキストであるコロサイ書3：5-11に記しています。パウロはここで特に罪に対して勝利するために、新しくされた者が行うべき二つの実践的な命令を記しています。ですから、この内容をともに見ていきましょう。そしてこの時間が、私たちひとり一人がキリストにいつも信頼して罪に勝利しながら歩み続ける忠実な者へと変わる助けとなることを祈っています。

☆新しくされた者への実践的な二つの命令

1. 自分の悪い欲望を殺しなさい 5節

5節「ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。」、パウロは1-4節の内容を受けて「ですから、」ということばで次の5節からを続けています。救われる前の自分の古い性質のすべてを「殺してしまいなさい。」と命令したのです。「地上のからだの諸部分、…を殺してしまいなさい。」と。この「殺してしまいなさい」ということばは文字通り「～の息の根を止める、完全に止める、厳しく抑制する」という意味をもつことばです。パウロはコロサイの人々に対して、新しくなったのだから、あなたの中に残るこの世に属する古い性質を完全に取り除くようにと命じたのです。では、切り捨てるべき古い性質とはどのようなものなのでしょうか？具体的にパウロは五つの罪について、特に、私たちひとり一人が自分の心のうちに持つ欲望に関する罪を挙げました。

a) 不品行

これは「性的な罪」、特に、結婚関係以外で行われる性的な行為であったり、不貞や姦淫を表しています。もちろん、聖書はこのような不品行を行う者は決して神の国を相続できないと教えています。パウロはIコリント6：9でこのように言っています。「あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼とな

る者、男色をする者、」と。「神の国を相続できない」最初のリストとしてパウロが挙げたのは「不品行な者」です。

b) 汚れ

次に「汚れ」が挙げられています。これは「不品行」よりさらに広い意味で用いられて、「不道德、完全に汚い、ふしだらな行為」という以上に「性的な考えや行いをいやくこと」を指しています。行いだけでなく、私たちのうちに生じるふしだらな思いや性的な考えを指しているのです。要するに、私たちの心のうちを見られる神の前には、聖くない思いはどれをとっても、たとえ行動に移していなくても喜ばれるものではない、正しいものではないとパウロは言いました。同じことをイエスも次のように言っています。マタイ5：28「しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいやくて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」と。行動だけでなく私たちの考えや思いが正しくなければ、それは汚れているということです。

c) 情欲

d) 悪い欲

このことばは「～を望む、～を願う」という意味があります。ここで言うことは、私たちが何かを願うこと、何かをしたいという欲を持つこと自体に問題があるということではありません。たとえば、私たちは生活の中で神に喜ばれる者になっていきたいという思いをもったり、良い夫、良い妻になりたいという願いをもつこと、何かを楽しむこと、趣味を楽しむことなど、何かをしたいという欲を持つことは何ら間違ったことではありません。むしろ、そのような願いを通して自分自身を駆り立てて自分の成長へと繋がっていくこともあるのです。しかし、ここで気を付けなければいけないことは、このような自分自身の願いはときに自分本位のものになってしまう易いものだという事です。

最初は良い願いで始めたこと、だれかのために神のためにと始めたことも次第に自分のうちに変化があって、自分自身の満足のために、神よりも自分の願いを達成することに心が支配されていくことがあるのです。それこそが「悪い欲」だということです。神を喜ばせることよりも自分の欲に心が支配されて、神が喜ばれないことをしてしまつたと、そのような経験は皆さん夫々にあることでしょう。

このような悪い欲を自分のうちに持ち続けるのであれば、神を忘れてしまい、それが罪となって現れるということもみことばに見ることが出来ます。ヤコブ書1：15をご覧ください。「欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」と書かれています。

e) むさぼり

このことばの原語は「もっと」と「持つ」のことばの合成語です。要するに、自分の持っているものでは満足できず、飽き足らずに、更に求めようとすること、「強欲」や「欲張り」ということを表しています。私たちがよく知っている十戒も「強欲な者であつてはいけない」と教えています。出エジプト記20：17に「あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隸、女奴隸、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」とあります。

コロサイ3：5では「…そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。」とパウロは言っています。これはどういうことか？とてもシンプルです。自分自身の欲望に捉われている人は神に従うことよりも自分の欲望を優先して、それを満たすことを人生の最大の目的とするのです。自分を喜ばせることが人生の最大の中心になるのです。そして、本来、私たちが中心とすべき神の代わりにそれ以外の何かを追い求め続けているのなら、そのことが偶像を礼拝していることになるので、パウロはそのように言うのです。

このような五つの古い性質について、パウロはそれらを「殺してしまいなさい」と命じたのです。私たちも同じように、このような古い性質を私たちのうちから殺す、完全に無くしてしまうことを教えられています。皆さん、この五つのことを見たときに、どこに自分の弱さがあるのかを考えられたでしょうか？どこに自分は誘惑によって負け易いところがあるのでしょうか？このようなことに対して、皆さんはどのような歩みをされているのでしょうか？

このように命令を与えたパウロですが、同時に、命令だけでなく、この後「あなたがたはその命令に絶対に従わなければいけません。なぜなら、こういう動機があるからです。」と、続いて、どのような動機をもって古い性質を殺すのかということを書いてあります。二つの動機を見ることが出来ます。

☆どのような動機をもって古い性質を殺すのか？ 二つの動機

1. 古い生き方には神の怒りが下るから 6節

6節には「このようなことのために、神の怒りが下るのです。」と書かれています。もちろん、神の怒りが下ることの意味は、救われた者も罪を犯せば神の怒りに遭うと警告しているものではありません。聖書は明白に、キリストを主として歩む真のクリスチャンたちは神の怒りからもうすでに救出されていると教えています。ローマ書5：9に「ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によ

って神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。」と教えています。

「神の怒りが下る」とパウロは言ったのですが、では、彼は何を言わんとしたのでしょうか？それは、キリストによって新しくされて者は主の怒りに値するかつての行動や考えにいっさい近づこうとはしないということです。かつて神を怒らせていた自分の行為や思いには新しくされたゆえにいっさい触れようとしないのです。ここにおられる皆さんもそうでしょう。キリストによって生まれ変わった私たちは自分のかつての姿をよく憶えていると思います。自分勝手に生きていて、性的な思いや考えに喜びを見出していたり、自分の欲を満たすことを生き甲斐としていたり、神以外のものに心を留めてそれを中心にして生きていたり… 私たちは例外なく、このように自分のことを第一にして自分中心の生活を送っていたのです。

しかし、感謝なことに、神によって救われた今はこれまでやって来たことが神の前に決して受け入れられない罪であり、そして、その行為が神を悲しませていただけでなく、どれ程神に怒りを覚えさせていたのか、そのことに気付いたのです。私たちは福音を通して、かつて自分がやっていた行動がどれ程神を怒らせていたのか、そのことに気付いた。そして、そのように怒らせていた者を救ってくださった神に対して、その愛の行動として神の子どもとされた者として、もうかつてのような生き方はしないとそのように心に決めるのです。子どもが愛する親に対して、親が怒ることをどうにかしてしないようにと願って行動するように、私たちは変えられた以上、かつての生き方から離れて行くのです。

確かに、私たちはこのように生きていく中にあっていろいろな誘惑に遭うでしょう。かつては楽しんでいたそのような誘惑に遭うかもしれません。でも、それが神を怒らせていたものだから私はもうそれをしない、そこから離れる、それらを完全に捨て去って神に喜ばれるもののために生きていくのだと、そうして罪を完全に殺していくのです。

2) 古い生き方に対して死んだのだから 7節

「あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。」、新しくされた以上、私たちはもう古い生き方に対して死んだのだ、だから、古い性質を殺していくと、そのようにパウロは言いました。これまで見て来たように、パウロはここでもコロサイの人々がキリストによってどのような者へと変えられたのか？新しくされた者はどのような者なのか？そのことを繰り返して教えました。あなたがたはキリストとともによみがえりキリストとひとつにされた。あなたがたは新しい歩みをする者へと変えられた。救いにおいても信仰者としての歩みにおいても、力を与えあなたを支えるのに十分なお方、イエス・キリストがもうあなたには与えられているのだと、パウロはキリストがあなたにとってもう十分なのだということを教え続けました。

ここから私たちが学べること、罪に対して私たちが勝利していくために大切なこと、それはイエス・キリストの充分性に確信を持ち続けるということです。私たちも同じように、イエス・キリストが十分なお方であることに確信を置き続けるのです。なぜ、このことが大切なのか？それはこの方だけが私たちの心を変えることの出来る神だからです。ゆえに、私たちはこの方に信頼を置いて歩むのです。

5節で私たちは五つの古い性質を見ました。この後見る8節にもパウロは五つの古い性質について記しています。「怒り、憤り、悪意、そしり、恥ずべきことば」と。皆さん、この10個の性質に共通していることは何でしょうか？それはこのような思いはすべて私たちの心から生まれるということです。不品行を行う人、怒り易い人、強欲な人、そのような人たちは何か突然そのような振る舞いをするのではありません。また、周りに影響されてそうなるのでもありません。単純に、その人の心の中の思いが行動となって出て来ているのに過ぎないのです。私たちの行うことのすべては私たちの心から出て来るのです。心が行動に現われるのです。そして、私たちが罪を完全に取り除こうとするなら、表面上を取り繕って行動を変えるのではなく、私たちの心を吟味して、私たちの心を変えることのできる唯一のキリストに信頼を置くことしかできないのです。

私たちがどれ程自分の意志で正しい行いをしようと思っても、私たちの心が変わっていなければ決してできません。私たちはこの心を変えていただく必要があるのです。では、いったいだれが変えることができるのか？それこそがキリストです。新しくされた者にはもうキリストが住んでいる、そのキリストこそあなたの心を変えることができるのです。もっと言うなら、かつて罪の支配の中にあった私たちの汚れた心は、キリストの救いによって新しい心へと取り替えられたということです。神が私たちの心を変えてくださるから、私たちの心に働いてくださるから、私たちは正しい行いをすることができるのです。だからこそ、心を変えられたクリスチャンたちは罪に対して、古い自分の性質に対して勝利することができるのです。決して、私たちの意志が強いから、私たちのうちに何かの力があるからではありません。

私たちにはキリストが与えられているから、私たちを変えるキリストが与えられている、だからこそ、私たちの責任は古い性質に対してそれを殺すこと完全に打ち勝つことだと、そのようにパウロは命じた

のです。

2. 人に対する悪い行為を殺さない 8節

これが実践的な命令の二つ目です。もう一度8節を見てください。「しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。」と。ここで使われている「捨ててしまいなさい。」という動詞のイメージがエペソ4：22で分かり易く描かれています。「その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、」と。ここにある「脱ぎ捨てる」ということばが「捨ててしまいなさい」と同じです。一日中重労働をして汗をかいて汚くなった服を脱ぎ捨てるかのごとく、新しくされた者はかつての自分たちの汚い生き方をすべて脱ぎ捨ててしまうということです。

ここでもパウロは、では、何を脱ぎ捨てるのか？五つのものを挙げています。

☆脱ぎ捨てるべきものとは？

a) 怒り

これは、ある人がとても不満な状態、だれかに対して根強く深い敵意や恨みを抱いている状態です。

b) 憤り

先の「怒り」とは少し違って突発的な怒り、不満を表すことばです。だれかに対して突発的に怒りをぶちまけたり、不満をぶちまけたりすることです。

c) 悪意

これはだれかに対する不誠実さ、悪い思いや感情を抱くということです。自分の気に食わない人に対して悪い思いを抱く、悪意をもつことです。

これらの三つをまとめて、パウロはこのようなものはクリスチャンの歩みには絶対に当てはまらない。クリスチャンはこのような特徴はもっていないとエペソ4：31でこのように記しています。「無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。」と。パウロは繰り返して言いました。あなたがたのうちにある怒り、憤り、悪意などを捨て去りなさい、脱ぎ捨ててしまいなさいと。

d) そしり

なぜ、わたしたちのうちにこのようなものがあるってはいけないのでしょうか？それは私たちがよく知っているように、多くの場合これらの思いが「人をそしる」という態度を生むからです。私たちがだれかに対して怒っているとき、何かがあるときだれかに怒りをぶちまけたりします。私たちがだれかに対して不満をもっているときにそれをぶちまけるときのあります。聖書はこのような「人をけなす」行為を軽く扱うことはないと教え、そのことをイエスのことばに見ることが出来ます。マタイ5：22「しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議院に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。」と。だれかを軽々しくそしるようなことば、行動はクリスチャンにふさわしい生き方、歩みではないのです。

e) 恥ずべきことば

これは人を傷つけるような節度を欠いた汚い不愉快なことばということです。同じマタイ12：35-36ではこのように記されています。「35 良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。36 わたしはあなたがたに、こう言ひましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。」、新しく変えられた者は、だれか他の人に対して不愉快なことばを掛けない、恥ずべきことばは発しないと言うのです。新しくされた者が発することばは、単に正しいことばだけでなく、相手の徳を高めるような、相手を助けるようなことばを率先して発言するようになるのです。

だからこそ、パウロは「互いに偽りを言うてはいけません。」(9節)と命じたのです。クリスチャンは互いの徳を高めるためにことばを使う。だから、「嘘」は相手の徳を高めるものではない、相手を助けるものではないと言うのです。覚えておくべきことは、私たちが「嘘」をつくときそれは単に正しくないことを言っているだけではありません。それは私たちがかつての主人であったサタンまねをしているということです。サタンに従って歩んでいることになってしまうのです。

私たちは何を脱ぎ捨てるべきか？五つのものを見ました。皆さんは、実際の生活の中でどのようにこれらのものに向き合っているのでしょうか？だれもがこの五つのものに当てはまっているでしょう。皆さんはどのようにしてこのような古い性質を捨てて日々歩んでおられるのでしょうか？たとえば、怒りや憤りは私たちの中に深く根付いてしまっているものです。自分の思い通りにならなかったとき、だれかに自分の気分を害されたときに怒りを覚えてしまいます。たとえば、車を運転しているとき、前の人のがのろろと運転していると衝動的に「何しているのだろう、早く行って！」と突発的に思ってしまう。

でも、このようなことを「仕方ない、謝って次に進めばいい」ともしそのように考えているなら、パウロが教えている「脱ぎ捨てる」ということをしてはいないのです。怒りや憤りはどんなに小さくても神は絶対にそれを喜んではおられません。私たちは神に喜ばれる者になった以上、神に喜ばれることをすべておいてしたいゆえに、怒りや憤りを脱ぎ捨ててしまいたいと願って生きていかなければいけないのです。

また、私たちはことばにおいて失敗することもあるでしょう。カッとなって発言してしまったこと、相手の気持ちを考えないで無責任に発してしまったことばによって、相手を怒らせたり悲しませたり傷つけたりしたことがあるでしょう。問題は、そのようなものが私たちのうちにあるなら、それらが出て来る心の状態がそうであるなら、その心をどのようにして変えようとしているのかということです。初めに見たように、私たちの心にあるものが必ず行動となって出て来るのです。表面上を繕っても、思いがけないことが起こると心の思いが出て来るのです。私たちが変えるべきは表面ではなく心を吟味してそれを変えることです。私たちは古い自分を脱ぎ捨てて変わっていく責任があるのです。

☆どのような動機をもって人に対する悪い行いを脱ぎ捨てていくべきか？ 9-10節

「9 あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」と。

・私たちが新しい人に変えられたから

新しい人に変えられたから古いものを脱ぎ捨てて生きていくとパウロは言いました。ここでもパウロは同じように繰り返して、新しくされた者がいったいどのような者なのか、新しいいのちを与えられた者がどういう生き方をするのか、そのことを再び教えたのです。あなたがたは古い自分をキリストの十字架とともにつけてしまって古い自分に対して死んだ。古い自分を脱ぎ捨てて新しい自分を着たと。

この「新しい人を着る」とは、クリスチャンになったことでこれまで生きて来たものにクリスチャン的考えをプラスして、新しい考え方や良い行いをしていくということではありません。パウロが教えること、「古いものを脱ぎ捨てて新しいものを着る」ということは完全に新しいものに変えられるということです。

パウロはⅡコリント5：17でこのように記しています。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と。パウロは一部だとも少しだとも言いませんでした。「すべて」キリストによって造り変えられたと言います。かつての私たちはアダムをかしらとして罪に墮落したこの世に属していた者でしたが、キリストをかしらとする新しい家族に属する者になったのです。確かに、かつての私たちは自分を愛し自分のために生きていましたが、キリストによってキリストを愛しキリストを喜ばせることを目的として生きる者へと変えられました。確かに、かつて怒りや憤りに苦しみ、性的な思いなどに喜びを持っていたけれど、あなたはキリストによって新しいものに変えられた、新しい価値観が与えられた、キリストにあって聖い者へと変わることができる者になったと言うのです。

皆さん、クリスチャンにとって「新しくされること」はゴールではなくスタートです。次に私たちはキリストに似た者へと変わり続けて行くのです。そして、その過程にあって、確かに罪との戦いを経験しますが、自分の古い性質をどんどん脱ぎ捨てていくことによって、聖い者へと変えられて行くのです。新しくされた者にふさわしく変わっていくのです。もちろん、このときに大切なものは「みことば」だということは言うまでもありません。みことばを通して神の基準を学び、私たちがいったいどのような者かを学び、そして、聖霊の力によってみことばを実生活に適用していくのです。Ⅱテモテ3：16に「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」と書かれています。このみことばが教えることは、私たちのすべてにおいてみことばは十分なものだということです。

私たちは日々の生活において誤った教えに惑わされたり誘惑されたりするかもしれませんが、聖書のみことばをもって「これが正しいのだ、これが真理だ」と確信をもって歩んで行けるのです。みことばという信仰の武具をもって戦いに勝利していくことができるのです。ときに罪との戦いに負けてしまうこともあるでしょう。でも、私たちは聖書のことばから知っています。罪を犯したときは神の前に悔い改めて赦していただき、また喜びをもって歩んでいくことができます。ときに苦しみを経験し試練の中に置かれることもあるでしょう。でも、私たちは神のみことばによって神からどのような約束が用意されているのか、どのような希望が与えられているのかを知り、そのことに目を留めて喜びをもって今日を歩むことが出来るのです。

パウロが教えることは、新しくされた皆さん、あなたがたにはもうキリストが与えられている、キリストだけで十分です。でも、あなたがたには「神のみことば」も与えられている。神のみことばも十分だ。あなたがたが生きていく上で「教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益」なものがもうすでに与えられていると。私たちにはキリストだけでなく神のみことばも与えられているのです。

まとめ

そして最後に、私たちがキリストとともによみがえらされたのであれば、私たちは自分一人で生きる者ではなくなったということです。クリスチャンはひとりで生きるものではありません。11節を見てください。「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」とあります。キリストがすべてであるなら、私たちがキリストのうちに一致しているのであれば、キリストのうちにすべての価値を見出しているのであれば、このキリストにあって私たちを分け隔てるものはいっさいないということです。国籍や伝統も、部族や場所や社会や文化も、性別や年齢も何ひとつとしてキリストにあって一致するものを分け隔てるものはないと言うのです。キリストがすべてであるなら私たちにとってキリストがすべてなのです。そして、このようにキリストによって一致した者、キリストによって変えられて新しくひとつとされた者、その兄弟姉妹とともに私たちは同じ目標を目指して、同じ責任を負って、罪との戦いに挑んでいくことができるのです。

私たちには同じキリストにあってひとつとされた兄弟姉妹がいるのです。私たちは互いに助け合ったり、互いに愛し合ったり、互いに慰め合ったり、ときに罪を指摘したり、ときに罪を赦し合ったり、そのようにしてよりキリストに似た者へと変わり続けて行くのです。ひとりではありません。私たちが兄弟姉妹としてこのことをしていくことができるのです。皆さん、新しくされたのであれば、私たちにはキリストが与えられみことばが与えられ、そして、兄弟姉妹が与えられています。コロサイに向けてパウロが言ったことは何でしたか？パウロは繰り返して「キリストだけで十分だ」と言いました。でも、神はそれ以上にみことばを与え、同じ目標を目指す兄弟姉妹を与えてくださったということです。

私たちにはこのようなものが与えられている以上に、皆さん、いったい他に何を求めるでしょうか？私たちには他に何か必要なものがあるのでしょうか？私たちに与えられている責任は、必要なものがすべて与えられている以上、キリストに似た者へと、古い自分を脱ぎ捨てて新しく変わり続けることです。そして、このようにしてキリストが私たちのうちにおられ、そして、聖書が与えられ、兄弟姉妹が与えられている私たちにとって、罪に勝利していくことは可能なのです。キリストがみことばがともにいてくださる私たちにとって、罪の戦いに必ず勝利することができる。そして、私たちは益々神に喜ばれる者へ変わっていくことができるのです。

さて、2週に亘って「新しくされた者の責任と希望」について学んで来ました。最後にもう一度、最初に皆さんにした質問をご自分に問い掛けてみてください。「あなたは本当にキリストだけが自分にとって十分なものだと考え、そのように生きているのでしょうか？」、見て来たように、私たちの救いにおいても、私たちの信仰の歩みにおいても、キリストだけで十分でした。私たちの日々の歩みはこのキリストだけに目を向けて、キリストに喜ばれるものだけに目を向けて歩んでいるのでしょうか？このお方に対する信仰、確信は日に日に高まっているのでしょうか？また、このお方にお会いすること、今は確かにこの方の姿を知らない私たちですが、必ず、主は帰って来られ、この方にお会いする楽しみが益々皆さんのうちに高まっているのでしょうか？

前回も見ましたが、ヨハネはすばらしい希望を私たちに教えてくれていました。Iヨハネ3：2「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」、私たちにはこの希望が与えられているのです。私たちは必ずキリストにお会いする日がやって来るのです。この希望をもっている以上、私たちに与えられていることは「日々を忠実に歩む」ということです。

イギリスの神学者ジョン・オーエンは彼の著書「キリストの栄光」でこのように述べました。「キリストの栄光に私は私の願いと思いを据える。キリストの栄光を目の当たりにすればするほど、この世の美しさはしぼんでいき、この世に対して私は益々死んだ者となるだろう。この世は私にとって死んだものであるかのような不快で楽しむことができないものになるのだ。」と。かつての信仰者たち、かつてキリストに会うというすばらしい希望をもって歩んだ人たちは、日々、古い自分を捨てて新しく変えられた者として、その者にふさわしい歩みを歩み続けました。私たちに問われているのは、同じように今日を歩むか？ということです。主に忠実に歩む者を主は喜んでくださる。ですから、どうか、この地上に置かれている限り、この世のものではなく、天にあるものに、真に価値あるものに心を留めて、キリストにあって罪に勝利しながら忠実に歩んでいきましょう。